

「市場化テスト(官民競争入札)」って何？

「公共サービス斬りツ！」は大問題

儲からなければ
やめさせてもらいます。



「市場化テスト」の タテマエとホンネ

タテマエ

- 実施は民間でも、予算は、国や自治体から出すから、公的責任は維持
- 競争原理の導入と「参入の自由」により官と民が切磋琢磨しあいサービスの内容と質が向上する
- 第三者評価によるサービスの提供者も保証付き
- 顧客主義の徹底で負担の対価としてサービスを受ける権利が守られる

ホンネ

- 公共サービスを縮小し、市場まかせ・丸投げがすすむ
- コスト競争の行きつく先は人件費の削減。「撤退の自由」によりサービス確保も困難になる
- 企業の判断基準は、公共性より、もうかるかどうか
- 競争入札で官業を譲渡し、民営化すれば、支払い能力でサービスに差が

いま、公共サービスを営利企業に移せば、安いコストでサービスが提供できるといって「市場化テスト」などの「民間開放」をすすめようとしています。しかし、これは大きな問題があると考えます。

■何がおこなわれようとしているか

政府の規制改革・民間開放推進会議は、国、自治体、関連法人が担っている分野＝「官業」を何でも営利追求の場に「開放」しようとしています。公務と企業のどちらかがサービスを担うかを競争入札で決める「市場化テスト」を導入しようというのです。

政府の動機は予算べらしであり、企業の動機は新しい利益追求の場です。そのために、国や自治体の責任は放棄される一方、公共事業のムダなど、財政赤字の原因は放置されたままです。

■しわよせは結局、国民に

長引く不況のもとで、民間企業は「仕事欲しさ」から安い見積もりを出してでも受注しようとするでしょう。そのしわ寄せは、そこで働く労働者へ。そして行く着く先はサービスの低下の「被害者」となる国民が続出する事態となります。儲からないことから、サツと身を引いてしまう企業の実態は、介護サービスの分野などで証明済みです。

■国と自治体の責任でサービス提供を

公共サービスは、社会に不可欠なものとして、安定して提供されなければなりません。そのためには、国や自治体が予算も人も確保し、責任をもって実施することが必要です。

国公労連

日本国家公務員労働組合連合会

東京都港区西新橋1-17-14 リバティ14 3F
TEL.03-3502-6363 mail@kokko.or.jp